

講義コード	20DRSh0101		
講義名	地域文化学特論 I		
講義開講時期	前期 1st Half		
基準単位数	2		
代表曜日			
代表時限			
研究科等	文化科学研究科		
専攻・プログラム	地域文化学専攻		
科目区分	共通科目		
授業を担当する教員	小野林太郎		
担当教員			
<table border="1"> <tr> <td>氏名</td> </tr> <tr> <td>小野 林太郎</td> </tr> </table>		氏名	小野 林太郎
氏名			
小野 林太郎			
授業の概要			
<p>本授業ではまず海域アジア・オセアニアにおける人類史の概要について紹介し、あわせて海域世界を対象とする人類学研究や地域研究を行う上で重要となる方法論とその実践事例について議論する。ここで主に扱う方法論としては、考古学、民族考古学、生態人類学があげられる。そのうえで後半においては、実際にこれらの方法論を用いて実践された海域世界の人類学研究として、東南アジア海域とオセアニア海域での研究事例を紹介し、海域世界における人類学の可能性や今後の課題について改めて検討する。</p>			
到達目標			
<p>アジア・オセアニア海域における人類史の枠組みを理解し、海域世界を対象とした人類学や地域研究の方法論やあり方について自身の考えを構築する。</p>			
成績評価基準			
<table border="1"> <tr> <td>01:A,B,C,Dの4段階評価</td> </tr> </table>		01:A,B,C,Dの4段階評価	
01:A,B,C,Dの4段階評価			
成績評価方法			
出席・小テスト・レポート			
授業計画			
<p>1回目：イントロダクション、2回目：人類史と人類学、3回目：海域アジアの人類史1、4回目：海域アジアの人類史2、5回目：オセアニアの人類史1、6回目：オセアニアの人類史2、7回目：海域世界の地域研究、8回目：海民の民族考古学、9回目：海域世界における人類研究の事例1（東ティモール）、10回目：海域世界における人類研究の事例2（スラウェシ）、11回目：海域世界における人類研究の事例3（マルク諸島）、12回目：海域世界における人類研究の事例4（ミクロネシア）、13回目：海域世界における人類研究の事例4（ポリネシア）、14回目：海域世界の人類学再考、15回目：まとめと小テスト</p>			
実施場所			
国立民族学博物館 状況によってオンライン開催			
使用言語			
日本語			
教科書・参考図書			
<p>小野林太郎 2018 『海の人類史－東南アジア・オセアニア海域の考古学』（雄山閣）、Ono, R. and A. Pawlik eds. 2020 Pleistocene Archaeology-Migration, Technology, and Adaptation. IntecOpen Publisher. Open Access E Book, 小野林太郎 2011 『海域世界の地域研究：海民と漁撈の民族考古学』（京都大学学術出版会）</p>			